

解答または解答例及び出題意図

年度	2026 年度
研究科	脳科学研究科
専攻・コース等	心の科学専攻
試験科目	小論文
<p>I 期 問題 1</p> <p><u>出題意図</u></p> <p>脳科学研究科心の科学専攻では、脳科学および関連分野の専門的知見を基盤としつつ、人間の知性や心に関する問題について多角的に考察し、それを論理的に表現できる人材の育成を目指している。本問は、近年の人工知能技術の進展を踏まえ、「思考」や「心」といった基礎概念について、その定義や前提をどのように捉え、どのように論じることができるかを確認する出題である。</p> <p><u>採点の観点</u></p> <p>問①では、現代の AI の動作原理や能力に関する基本的な理解を踏まえ、「思考しているか」「知性をもつか」という問いに対して、どのような立場から論ずるかを明確に示せているかを評価の観点とした。立場の選択自体は配点に影響させないが、選択した立場を支える論拠の明確さや議論の一貫性を重視した。特に「思考」や「知性」といった概念をどのように捉えるかという前提の置き方と、その前提と結論との対応関係が適切であるかについても評価の対象とした。</p> <p>問②では、「心」という概念について、現時点での考えをどのように整理し、一貫性をもって論述できているかを評価した。これまで学んできた既存の学説に依拠するか否かにかかわらず、概念の定義が適切に示され、論旨が明確に展開されているかを重視した。問①・②を通して、日本語による論理的な論述力および記述内容の論理的整合性が十分に保たれているかを主要な採点の観点とした。また、用語の使用が適切であることも重視した。</p> <p>I 期 問題 2</p> <p><u>出題意図</u></p> <p>本問は、脳科学の発展におけるモデル動物の役割について具体的に理解し、その有用性と限界を適切に説明する力を評価することを目的として出題した。個別の研究事例に基</p>	

づいて主張を論理的にまとめる力とともに、ヒト以外の動物を用いた研究の意義や制約について、多面的に考察する力を問うたものである。

採点の観点

まず、脳科学の発展に寄与したモデル動物と研究内容の適切な組み合わせが挙げられているかを評価した。あわせて、その動物がもつさまざまな特性が、具体的にどのように研究の進展に寄与したのかについて、筋道立てて説明できているかを重視した。

さらに、ヒト以外の動物を用いた研究からヒトの認知機能や神経のしくみを理解しようとする際の注意点について、種による違いや実験条件の制約などを踏まえ、研究結果の解釈や適用範囲について慎重に検討できているかを重視した。

本問においても、日本語による論理的な論述力および記述内容の論理的整合性が十分に保たれているかを主要な採点の観点とした。とりわけ、主張と根拠の関係が明確であること、論述全体に一貫性があること、用語の使用が適切であることを重視した。

Ⅱ期

出題意図

脳科学研究科心の科学専攻では、脳科学および関連分野の高度な専門性に加え、それらの知見を社会の中で適切に位置づけ、説明し、対話できる人材の育成を目指している。本問は、脳科学および AI 技術の進展が現代社会に及ぼしている（あるいは及ぼしうる）影響を多面的に理解し、自らの言葉で論理的に説明する力を評価することを目的として出題した。

採点の観点

問題 1 では、脳科学研究や AI 技術の具体的な社会的応用例を挙げ、それぞれがどのような仕組みや背景に基づき、どのような影響を社会にもたらしているのか（あるいはもたらしうるのか）を的確に説明できているかを評価した。単なる知識の列挙にとどまらず、これらの技術の進展が社会にもたらしうる変化について、論理的に記述できているかを重視した。

問題 2 では、AI 技術の発展に伴う社会的課題や倫理的側面を踏まえ、研究者・技術者が市民社会とどのように関わるべきかについて、自らの考えを論理的に論述する力を評価した。特に、専門知の社会的責任、リスクコミュニケーション、信頼の構築といった観点を踏まえ、あるべき科学と社会の関係について主体的に考察できているかを重視した。

また、問題 1・2 を通して、日本語による論理的な論述力、および記述内容の論理的整

合性が十分に保たれているかを主要な採点の観点とした。とりわけ、主張と根拠の関係が明確であること、論述全体に一貫性があること、ならびに事実と意見が適切に区別されていることなどを重視した。

Ⅲ期

出題意図

脳科学研究科心の科学専攻では、脳科学および関連分野の専門的知見を基盤としつつ、それらを社会の中で適切に位置づけ、わかりやすく説明し、他者と対話できる人材の育成を目指している。本問は、近年の脳科学の応用可能性の広がりを踏まえ、その知見が社会において誤解されて拡散されることに伴う問題について、その背景や要因を整理したうえで、専門家としての適切な対応の在り方について自らの考えを論理的に述べる力を評価することを目的として出題した。

採点の観点

本問題では、脳科学の知見が社会においてどのように受け取られうるかを踏まえ、その際に生じる様々な誤解や齟齬について、背景や要因を適切に評価し、整理できるかを評価した。あわせて、こうした状況に対して専門家としてどのように向き合うべきかについて、自らの立場を明確にし、筋道立てて論述できるかを重視した。特に脳科学・心の科学の専門家を志す立場として、社会との関わり方について主体的に考察し、一定の具体性をもって記述できるかについても評価の対象とした。

また、日本語による論理的な論述力、および記述内容の論理的整合性が十分に保たれているかを主要な採点の観点とした。とりわけ、主張と根拠の関係が明確であること、論述全体に一貫性があること、ならびに事実と意見が適切に区別されていることなどを重視した。